

町長の災害に対する認識を問う

人命・財産を守る事が第一



中山 美幸 議員

昨年4月、大地震に見舞われた熊本県南阿蘇村、益城町、また大きな避難所となったアリーナや仮設住宅の現状を見てきた。自然災害の大きな力に驚き、予防対策の重要性について認識した。防災は、住民、消防団、ボランティア、企業、行政など多くの担い手の共同作業である。災害対応は経験値が豊富であれば、それだけ良い対応ができる。このとき、防災意識の根底には、個人が持つ経験値が関係するだろうと推察できる。そこで長い職員

としての経験と町長としての経験から、特に自然災害に特化した認識を問う。

第一に地域住民の生命や財産を守る

町長

自然災害は、暴風、豪雨、洪水、地震、津波、噴火などにより人命や人間の社会的活動に被害を生じる現象であり、勢力や規模が強まる傾向にある昨今、町としても防災・減災の対策に努めているところである。第一に総合的な防災計画の作成、第二に防災体制の充実、第三に要配慮者への配慮、第四に地域防災力の向上、第五に被災者のニーズを踏まえた速やかな災害復旧・復興の推進を基本方針とし地

域住民の生命や財産を守るために積極的に取り組んでいく。

施政方針では防災対策について一言もない

中山議員

町長の施政方針演説の中に、防災という言葉が何回出てきただろうか、人命という言葉が何回出てきただろうかと考えた。一丁目一番地が住民の命・財産を守るとの認識であれば新年度予算に計上すべきではないか。

補正予算で対応する

町長

昨年の台風災害もあつたが復旧措置は当然国県の補助を得るわけであるが、補助対策を講じながら防災・減災で地域の安全を守るとい

とで取り組んできている。当初予算に反映されていない部分もあるが補正予算等で大方取り組んでいる。29年度当初予算そのものには災害に対するものは計上できていないので、対策としては補正予算で対応していく。



排水路から噴き出す雨水

三文字地区防災対策の進捗状況を示せ

中山議員

以前の一般質問で、「治山治水事業総合流域防災事業対策にあたっており大きな地震がない限り大

丈夫。」「防災計画を見直し町民が安心して安全な街を目指す。」と町長は答弁している。すでに2年が経過し目に見えて進んでいない。この三文字地区住民から出された請願三文字地区防災対策に対する進捗状況を示せ。

平成29年度から随時整備する

町長

平成27年7月雨水対策に関する検討会を設置。平成28年8月に雨水排水調査業務を実施した。調査の結果、調整池は効果は望めるが調整池を上流に設置した場合築堤決壊等新たな災害が危惧されるため、三文字地区に流入する雨水排水を上流部で分水する対策が有効と思われる。県道は県により上流部で分散する設計委託を実施している。既存側溝の改修は、農協前通り下流部から29年度随時整備する。防火水槽設置については消火栓設置

で計画、避難用の防犯灯については国の補助事業で対応できないか検討を進めている。

本計画の完成時期はいつか

中山議員

なるべく早い時期に完成しないと、5月、6月には集中豪雨の発生による災害の可能性もある。いつ完成するのか。県道の分水については効果は期待できるのか。

平成29年度から5年計画で実施する

建設課長

県道の分水は県の事業として測量設計、用地買収を含めて29年度開始である。さらに、仮宿地区の排水路と道路改修歩道設置までを県に要望している。町でやる事業は地方改善施設整備事業を受け第1期工事では農協の西側通りとその支線、第2期工事は農協東側通りとその支線の工事を5年計画で実施する。